OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「かわいい」の複合語に関する小史
Author(s)	井原, なみは; 入戸野, 宏
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2024, 50, p. 49-67
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/94725
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

「かわいい」の複合語に関する小史

井原　なみは・入戸野　宏

目　次

１．はじめに
２．「かわいい」の原義
３．「かわいい」の拡張と複合語の誕生
４．さまざまな複合語のマッピング
５．「かわいい」の現状
６．おわりに

「かわいい」の複合語に関する小史

井原　なみは・入戸野　宏

1．はじめに

言葉は時代によって変化する。「かわいい」という言葉も例外ではなく，時代によって変化している。現在では「kawaii」として海外の一部でも通じる言葉になり（吉光 , 2017），「キモかわいい（気持ち悪い＋かわいい）」などの複合語や「ぐうかわ（ぐうの音もでないほどにかわいい）」「めっかわ（めちゃくちゃかわいいの略）」などの新しい表現も生まれている（玉崎 , 2016）。

「かわいい」については，これまでの約 30 年間，少女文化（青柳 , 2014; 大塚 , 1989; 増淵 , 1987）やファッション（古賀 , 2009），ファンシーグッズ（中村 , 2012; 島村 , 1991）の観点から，また，文化論（四方田 , 2006）や工学（大倉 , 2017），心理学・行動科学（入戸野 , 2009; Nittono, 2016; 入戸野 , 2019）の研究として，さまざまな調査や考察が行われてきた。こうした中で，「かわいい」がいかに人々を魅了し日本独自の文化として隆盛してきたか，かわいいと感じることにどのような効果があるかなどが論じられてきた。

しかし，「かわいい」を含む複合語の起源については詳細に検討されていない。「エロカワイイ」「キモカワイイ」は 2006 年に新語・流行語大賞にノミネートされていることから（「現代用語の基礎知識」選ユーキャン新語・流行語大賞 , https://www.jiyu.co.jp/singo/index.php?eid=00023），こうした複合語は社会でも一定の認知がなされている。「かわいい」を論じる上で，かわいさの中に潜む毒気こそが重要なエッセンスだという主張がある。例えば，「キュートとは単に愛らしくて（スウィート），か弱そうな人や物を指すだけではない。その〈愛らしさ〉（中略）が，不気味で曖昧な存在（中略），さらには怪物のような存在になったときに起こる現象もまた，キュートなのだ。」（May, 2019 吉嶺訳 2019, pp. 7–8）や，「『かわいい』の本質には，後述するように『キモカワ』すなわち醜悪さ，グロテスクさ，死のイメージなどが含まれている」（斎藤 , 2011，p. 89）といったように，これらの一見相反する要素が「かわいい」の理解に必要であることが示唆されている。これらのことから，「かわいい」の複合語について分析することは「かわいい」という概念を理解するために有益であると考えられる。

本稿では，「かわいい」を含む複合語に着目し，その誕生と発展の歴史をまとめる。2 節では「かわいい」という言葉の語源と原義について紹介する。3 節では「かわいい」

が複合語として展開していった経緯を述べる。4 節では「かわいい」の複合語に関する調査結果を報告し，5 節では「かわいい」の現状について論じる。最後の 6 節では，本研究の限界点と今後の課題について考察する。

2．「かわいい」の原義

「かわいい」の語源は，「かわはゆし（顔映ゆし）」である。「はゆし」はまぶしいさまを表し，「きまりがわるい，恥ずかしい」という意味で古くは今昔物語集（1120 年ごろ）に記載が確認されている。この「かわはゆし」が，「かはゆし」を経て「かわいい」へと変化した（『角川古語大辞典』2018 年）。その後，中世では「見るに忍びない」の意味が派生して「気の毒だ，不憫だ」という意味で用いられ，中世後半には弱者への憐れみの気持ちが転じて「（女，子どもなど）愛らしく感じられる。甘えの気持をこめて愛人などをいとしいと思うさま。」という情愛の念を表すようになった。

「不憫」の意味は近世に入ってから消失し，「愛すべきさまである。心がひかれて，放っておけない，大切にしたいという気持ち」を表す言葉として使われていく（『日本国語大辞典第二版』2007 年）。「かわいい」の語義について，2006 年以降の国語辞典を分析した宇治川（2021）は，「愛らしい」「小さい」「微笑ましい」が現代の「かわいい」を説明する中心的な語であると報告している。

「かわいい」という言葉は，もとは「恥ずかしくて顔が赤らむような状態」を表す感情形容詞であったが，時代とともに属性を形容する言葉としても使われるようになった（『日本国語大辞典第二版』2007 年）。現代では感情を形容する語としても，対象の属性を形容する語としても使うことができる。本稿では，区別のためにかわいいと感じられる対象の属性や種類を「かわいさ」，対象に向けられた感情を「かわいい感情」と呼ぶことにする（入戸野 , 2019）。

3．「かわいい」の拡張と複合語の誕生

3.1 調査目的

「かわいい」という言葉が使われる対象の変遷，そして複合語が一般的に使われるようになった時期を推測するために，各新聞社が提供するデータベースから「かわいい」関連語の検索を行った。

3.2 調査項目

新聞社 4 社（朝日新聞，日本経済新聞，読売新聞，毎日新聞）のデータベースから，「かわいい」または「かわいい」複合語について検索した。

複合語は 4 節の調査で使用した「共感できるかわいさ」を表すものを中心に，雑誌や

インターネットから集めた「病みカワイイ・謎かわいい・オシャカワ・ずるかわいい」についても検索した。かわいいについては「可愛い・かわいい・カワイイ・かわ・カワ」の表記揺れを考慮し，それぞれの組み合わせで検索した。検索結果の中で最も早い時期に新聞の見出しまたは本文中に記載があった新聞記事を初出とした。

各データベースの詳細は以下の通りである。聞蔵Ⅱビジュアル･フォーライブラリー(朝日新聞:1879 年以降，週刊アエラ:1988 年 5 月 24 日以降，週刊朝日:2000 年 4 月以降)，ヨミダス歴史館（読売新聞：1874 年 11 月 2 日以降)，日経テレコン 21（日本経済新聞朝刊・夕刊：1949 年 4 月以降，日経産業新聞：1975 年 4 月以降，日経M J ・流通新聞：1975 年 1 月以降，日経金融新聞：1987 年 10 月～ 2008 年 1 月，日経プラスワン：2000 年 4 月以降，日経マガジン：2005 年 3 月 20 日～ 2012 年 3 月 18 日)，毎索（毎日新聞：1872 年 3 月 29 日以降)。

3.3 結果と考察

データベースを用いて「かわいい」が見出しや本文に使われている紙面を検索した結果，1970 年代後半ごろまではすべての記事で「かわいい（可愛い)」という言葉は動物や子ども，女性に対してのみ使われていることがわかった。

変化が起きるのは 1980 年代以降である。朝日新聞（1988）の記事では，東京造形大学の柏木博助教授（当時）が「数年前から，若い女の子たちが，褒め言葉で『カワイイ』を多用し始めました。年寄りでも，おじさんでも，みなカワイイ。この言葉は，結局，年齢も，何も超越した価値基準なんですね。」と述べている。当時の新聞には「若い世代

乏しい表現力かわいい連発」（朝日新聞 , 1985）や，「何にでも『これ，かわいい！』語義が豊富？表現の貧困？」（読売新聞 , 1992）という見出しが登場し，「西洋建築でも，怪獣でも，おじさんも『かわいい』といわれちゃう。」（今吉 , 1990）と評された。このころのメディアでは，若い女性を「『ウッソー』『ホントー』『カワユーイ』の三語ですべての感情を表す『三語族』」と呼ぶ流行があり（米川 , 2002)，増渕（1994）は，若い女性はほとんど無意識にまたは相づち代わりに「かわいい」という言葉を乱用する「『かわいい』言語乱用症候群」(p. 6）であると表現した。このように，1980 年代後半～ 90 年代に『かわいい』という言葉を使うブームが起こっていたと考えられる。この時点で「かわいい」の複合語は登場していない。

「かわいい」を含む複合語について，新聞記事での初出が確認できたものを表 1 にまとめる。最初に登場したのは 1986 年の「ぶすっかわいい」である。流行語を紹介する記事の中で，「へたうま」という言葉とともに「ブスとはいうもののかわいいという形容」と記載された（表 1 の No. 1)。しかし，この言葉が他の場所で使われた記録は確認できず，2002 年以降に表れる「ブスかわいい（表 1 の No. 6)」の元になった可能性もあるが，この時点では複合語は普及していなかったと考えられる。

本格的に「かわいい」の複合語が使われ始めたのは 1990 年代後半である。まずは「ダ

サかわいい」「きもかわいい」という言葉が複数の新聞に登場しはじめた。新聞社 4 社の中では 1997 年の日本経済新聞（表 1 の No. 2）で最初に「ダサかわいい」が現れた。その後, 同年 8 月の記事には「ここ数年続いているダサかわいいの流行」という記述（村岡 , 1997）があり，週刊アエラ（長友 , 1997）や毎日新聞（吉川 , 2000）などでもトレンドとして取り上げられたことから，1990 年代後半からの流行であったことがわかる。「きもかわいい」も同様に, 1997 年に毎日新聞（表 1 の No. 4）で流行語として紹介された後，日経流通新聞（2001），読売新聞（2002）や日本経済新聞（中野 , 2002）でもトレンドとして紹介されていた。「かわいい」複合語の中ではこれらの言葉だけが辞書に掲載されており，それぞれ「ださかわいい【ださ可愛い】: 俗に，やぼったいところがかえって魅力的で，かわいらしいさま。多くファッションについていう。」「きもかわいい【きも可愛い】: 俗に，キャラクターなどが，気持ち悪い見た目ではあるが，同時にどことなくかわいらしさも感じられるさま。」(『デジタル大辞泉』2022 年 1 月閲覧）と解説されている。

「きもかわいい」が広まるきっかけのひとつに，ダンシング・ベイビーという，どこか不気味なダンスをする赤ちゃんの CG（コンピュータ・グラフィックス）動画がある。1990 年代後半にインターネット上で流行し，TV ドラマ「アリー my　Love」やトヨタ自動車キャミのテレビ CM（1999）にも採用され多くの人の目に触れた。その後 2004 年ごろからお笑い芸人のアンガールズがブレイクし，気持ち悪いのにどこかかわいいと感じてしまう気持ちが人々の間で共有されていった。こうした現象を反映して, ユーキャン新語・流行語大賞（https://www.jiyu.co.jp/singo/）には，2006 年には「キモカワイイ」がノミネートされ，2008 年には，これまでのキャラクターとは一味違ってのんびりとした雰囲気と脱力感が魅力的な「ゆるキャラ」（みうら , 2004）がノミネートされた。このように，反義語と組み合わせることで新しい「かわいい」のカテゴリを創出して楽しむ風潮が 1990 年代後半から 2000 年代に生じた。

次の段階として，2005 年ごろからは「エロかわいい」「ぽちゃかわいい」などかわいさを細分化して表現するようになった。2000 年代はファッション雑誌の全盛期で，このころに女性の容姿やファッションに関係する外見的な特徴をカテゴライズするための複合語が登場した。ヒットの中心であった女性誌「Can Cam（小学館）」は「めちゃモテ」をキャッチコピーにして 72 万部の発行部数を誇り（中野 , 2006），20 代女性を中心に社会現象を引き起こした。社会学者の高橋（2018）によれば，女性ファッション誌とは女性をステレオタイプ的に表象するものであり，Can Cam は「モテかわいい系」のモデルを起用して「かわいい」から「モテる」という意識を社会に浸透させ，女らしさの新たなステレオタイプを強化したという。女性誌で「キレイかわいい」「大人可愛い」などの言葉が多用されたピークは 2005 年との報告もある（古賀 , 2009）。こうした背景をふまえると，2005 年から 2010 年ごろは，かわいさを細分化し，どの系統のかわいさであるかを区分することが重視されていた時代といえる。

こうした「かわいい」複合語の変遷イメージを図 1 に示す。この図からは複合語は一

気に拡大したのではなく，大きく分けて２段階で変化していったことがわかる。1990 〜 2005 年ごろまでは，子どもや動物などの「正統派かわいい」に対して，反義語と組み合わせることでややネガティブで個性的な特徴を表現した「新しいかわいい」が誕生した。その後 2005 年以降は，かわいさを細分化するための複合形容詞が増えていき，2010 年代後半からは「あざとい」というような内面的な要素をも取り込むようになったことが見えてくる。宇治川（2021）が指摘するように，人々が関心を持つ対象には多くの名称ができ，細かく区別されるようになる傾向があるとすれば，「かわいい」の複合語が発展した背景には 1980 〜 90 年代の「かわいい」という語の多用（乱用）があったと考えられる。

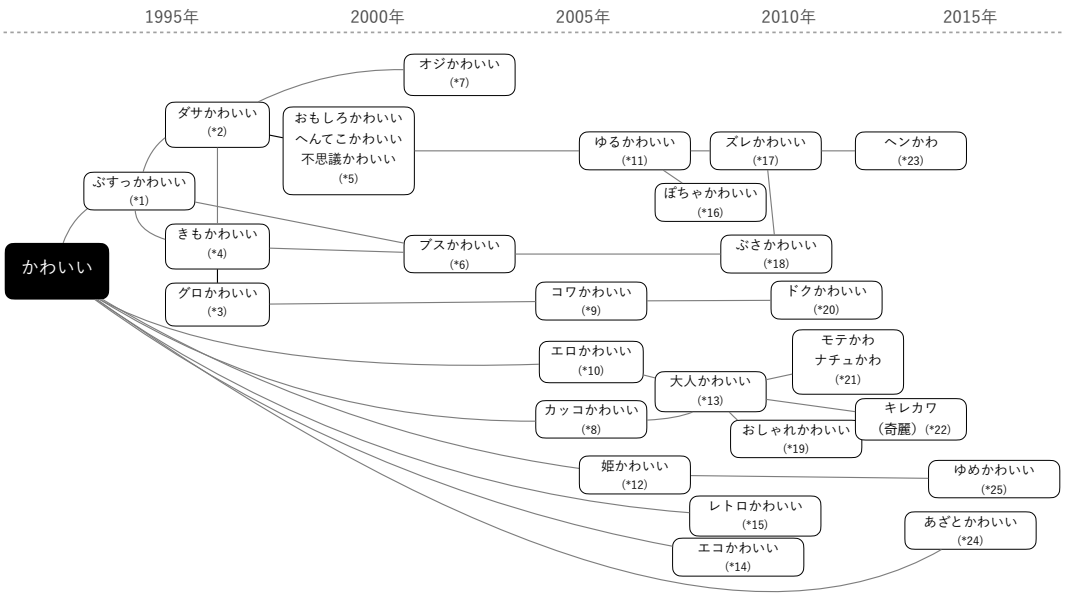

図 1.「かわいい」複合語の変遷イメージ　カッコ内の番号は表 1 での通し番号を示す
複合語同士の関連は著者の推測による

4．さまざまな複合語のマッピング

4.1 調査目的

「かわいい」複合語の初出を調べたところ，新聞記事で使われたものだけでも 25 種類の複合語があり，図 1 に示したようにその成り立ちや意味はいくつかのグループに分類できる可能性が考えられた。例えば，「きもかわいい」と「おしゃれかわいい」は同じ複合語ではあるが，表現しているかわいさには違いがありそうである。複合語で表されるさまざまなかわいさの位置づけを知るために下記の調査を行った。

4.2 調査対象者

インターネットを通じて，20 代から 60 代の男女に調査票への回答を求めた。調査は 2018 年 7 月下旬に株式会社クロス・マーケティングを通じて実施した。調査の実施にあたり，大阪大学大学院人間科学研究科行動学系研究倫理委員会の承認を受け（承認番号 29–112），回答者からはインフォームドコンセントを得た。分析には 20 代から 60 代の各年代で男女 100 名ずつ，計 1,000 人分の回答データを使用した。この調査の一部は Nittono et al. (2021) で発表されており，素データは https://osf.io/hjgwv/ で公開されている。

4.3 調査項目

清澤（2014）は，女性がかわいいと感じる色の定量調査を実施する際に，雑誌，WEB，言語イメージスケールなどの幅広い用例から 24 項目の「共感できるかわいさ」を選定した。具体的には「一見ブサイクだが愛嬌があって憎めないかわいさ」「脱力感があってゆるいかわいさ」などの項目があり，「ぶさかわいい」「ゆるかわいい」など複合語で表される項目であった。本調査では，そこで選定された 24 項目の「共感できるかわいさ」に対して「あなたはふだん，どのくらい以下のような『かわいさ』を感じることがありますか。もっともよく当てはまるところを選んでください。」と回答を求めた。複合語そのものではなく，それぞれのかわいさを説明した記述（例えば，小さな子どもや動物のようなあどけないかわいさ）に対して，1：まったく感じない〜 6：非常によく感じるまでの 6 件法で回答してもらった。この質問紙には正解がないために，研究者の意図する次元で回答しているかどうかを確認できないことが問題点である。そのため，接近動機づけを伴うポジティブ感情という「かわいい」の定義（井原・入戸野 , 2012）に反する 1 項目「嫌悪を感じ，近づきたくないかわいさ」を追加した。この項目に対する平均得点が低くなることを確認できれば，調査の結果は全体として妥当であるといえる。以上の 25 項目をランダムな順序で提示した。

4.4 結果

図 2 に，24 項目の「共感できるかわいさ」をどのくらいの頻度で感じるかの評定値を示した。確認のための項目「嫌悪を感じ，近づきたくないかわいさ」に対する回答はほぼ最低得点（平均 2.5 点）であったため，調査の結果は妥当なものと考えられる。項目の平均値が評定尺度の中点（4 点）を超えたのは，「小さな子どもや動物のようなあどけないかわいさ」「純粋さが魅力的なかわいさ」「飾らず自然体なかわいさ」であった。

全体として，女性の方がさまざまなかわいさをより頻繁に感じていることが示された。「宝石など上品なかわいさ」「パステル調でふわふわのかわいさ」といったモノや非生物に対するかわいさは女性の方が感じている。これに対して「セクシーなかわいさ」は男性の得点が著しく高かった。

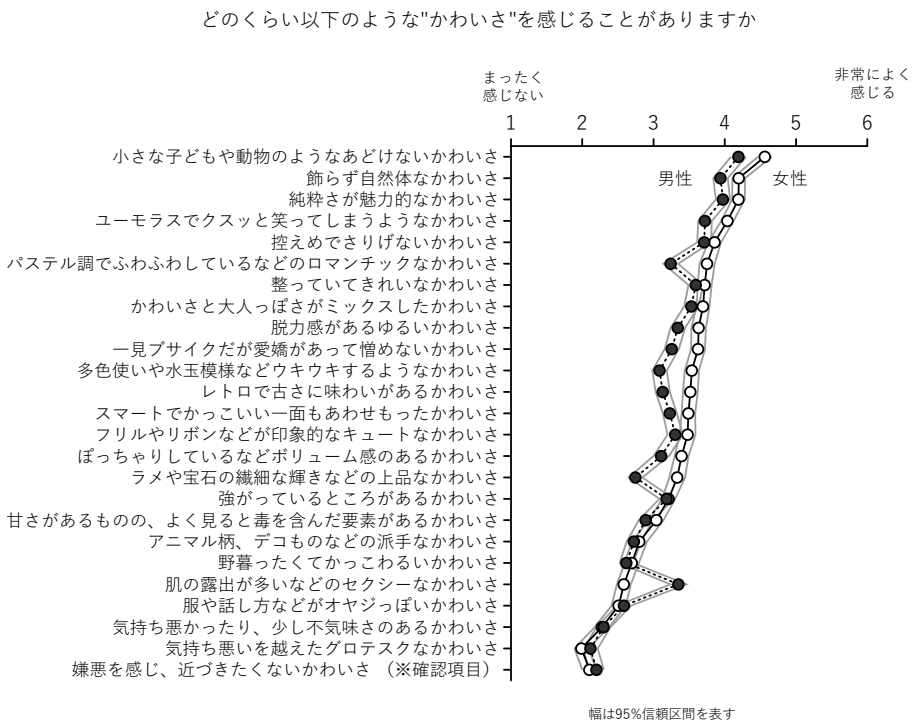

図 2．24 項目のかわいさを感じる頻度

次に, 各項目の心理的な類似度を可視化するために多次元尺度構成法（multidimensional scaling: MDS）を用いて分析を行った。この統計手法は対象間の非類似性データ量を距離に変換することで，潜在する少数の次元や背後にある認知構造を明らかにできる（奥・髙橋 , 2013）。IBM SPSS version 24 の ALSCAL を用いて項目ごとの評定値を非計量ユークリッド距離モデルで類似性行列として分析し，距離行列を二次元平面上に図示したものが図 3 である。ストレス値（S-Stress）は 0.09，決定係数（RSQ）は 0.97 であった。モデルがデータに完全に適合している場合のストレス値は 0，決定係数は 1 になるので，適合度は良好であった。項目の距離行列の特徴から，次元 1 は「グロテスクなかわいさ（2.05）」と「あどけないかわいさ（4.38）」が最も遠い位置にあった。項目の特徴から，次元 1 を「快―不快」軸と解釈した。次元 2 は「セクシーなかわいさ（2.97）」と「ブサイクだが愛嬌があるかわいさ（3.44）」が最も遠く，それらの近くにある項目の特徴から「外面―内面」軸と解釈した。また，各項目の類似度と特徴から，外面的なかわいさ，内面的なかわいさ，不快な要素を含むかわいさ，の 3 つのグループに分類した。

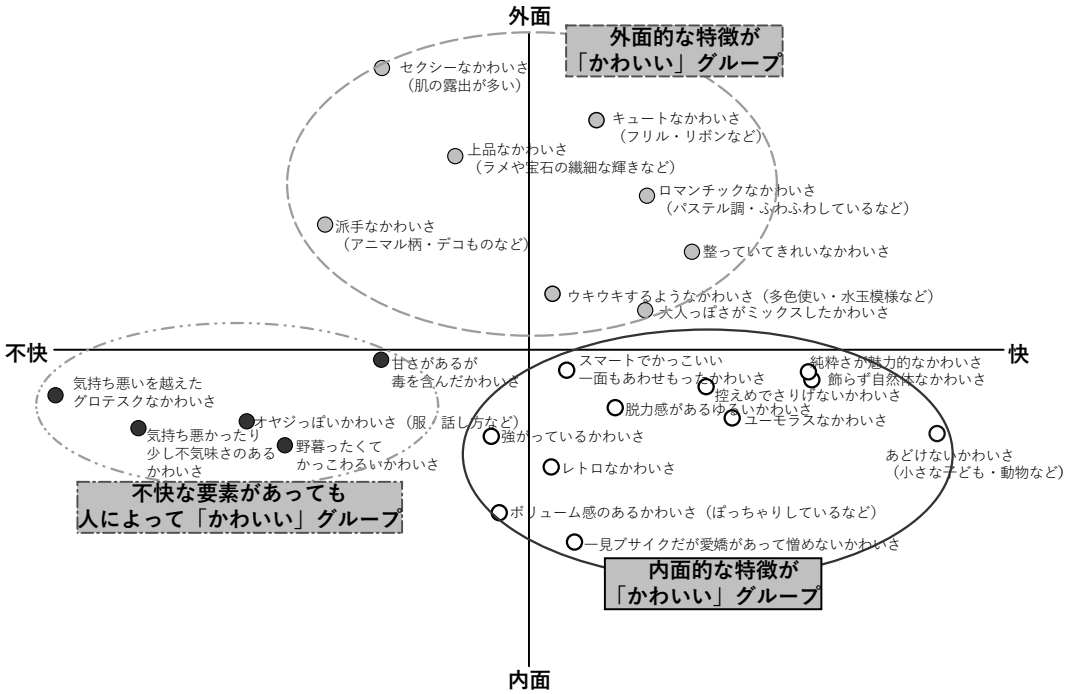

図 3. 1,000 名のデータによる 24 項目のかわいさの類似度マッピング

4.5 考察

本調査から，日常生活の中で表現されるさまざまなかわいさを感じる頻度は性別や個人によって異なっていること，それらのかわいさは 3 つのグループに分けられることが示された。

「かわいい」のコアには幼児に対する愛情や保護につながる生物学的な基盤があると考えられている（入戸野 , 2009）。本調査でも最もかわいいと感じられることが多かったのは，「小さな子どもや動物のようなあどけないかわいさ」であった。動物行動学者のローレンツは，人間や動物の子どもには共通する見た目の要素があり，それらが人間に「かわいらしい」「愛らしい」と感じさせ，養育行動を引き起こすと考えた（Lorenz, 1965 日高・丘訳 1989）。例えば，大きくて顔の下の方についた目，ふっくら膨らんだ頬，太く短い手足，しなやかで弾力性のある肌，不器用な運動様式などを挙げている。これらの要素は外面的な特徴であるが，それらが共通して引き起こす愛らしさやあどけなさが，「かわいい」のコアにあると考えられる。本調査では，それに次いで「純粋さ」や「自然体」「ユーモラス」といった内面的な性質がかわいいと感じられていた。さらに，MDS を用いて類似度によるマッピングをしたところ，あどけないかわいさとその他の内面的な特徴を持つかわいさは同じグループとして分類できた。これは，「かわいい感情」が幼さに対する保護欲求を超えたものであり，より広い意味で親しみやすく社会的に交流したくなるような対象に抱くポジティブな感情であるという説明と整合する（Nittono, 2016; 入戸野 ,

2019）。

次に，今回の分析では 2005 年ごろから流行した「エロかわいい」「派手かわいい」のような，外見の特徴に関するかわいさのグループが抽出された。このグループは，女性からの評価が高いという共通点でまとまっていると推測できる。本調査でも，多くの先行研究（井原・入戸野 , 2012; Lieber-Milo, 2021; Nittono et al., 2021）と同様に，女性の方がより頻繁にかわいさを感じていることが示された。使用した 24 項目の「共感できるかわいさ」が，清澤（2014）が女性誌などから選定したことも影響しているだろう。また，このグループのかわいさは，ファッション誌の流行とともに女性の間で広まった褒め言葉の一つでもある。そのため，流行の影響を受けながら変化していくことも特徴である。女性の外見を評価する際に，2023 年では「エロかわいい」や「カッコかわいい」などはほとんど使われなくなった印象があるように，かわいい配色や服装のトレンドは移り変わっていく。

最後に，一般にはネガティブな要素を含んだかわいさのグループがあることも示された。「かわいい」は感情を表す言葉でもあるために，何をかわいいと感じるかは評価主体との距離感や視点，経験などによって変わる。対象の属性が変わらなくても，見方によって「かわいい感情」が喚起されることもある。この「かわいい感情」は相手と関わりたいという社会的な接近や交流の動機づけに関連しているため（井原・入戸野 , 2012; 入戸野 , 2009; Sherman & Haidt, 2011），対象が不完全であることや王道から外れていることに興味を持ち，それと関わりたいと動機づけられると，それは「かわいい感情」になる。しかし，典型的なかわいさをもたない対象であるから，それを単なる「かわいい」という言葉で表現するのは混乱を招く。この矛盾をはらんだ個人的な気持ちを表すために，時に不快な要素すら含む「かわいい」複合語が誕生し，普及したと考えられる。

5．「かわいい」の現状

1980 年代までは幼いものや少女文化に対する言葉だった「かわいい」は，その後若者の流行語として幅広い対象に使われるようになり，1990 年代の終わりには王道を外れた「ちょっと気持ち悪い」ものにまで拡がった。2000 〜 2010 年代には「かわいい」ブームといえるほど，若者女性のファッション，キャラクター，アニメなどのポップカルチャーの中心的な価値観となった。しかし，「かわいい」の対象が拡がりすぎると不便にもなる。「かわいい」という言葉は他者とのコミュニケーションにも使われるからである。女子高生が原宿系ファッションに求めるかわいさと，20 代女性がオフィスファッションに求めるかわいさ，不気味で毒気のあるキャラクターに求めるかわいさは，どれも異なっている。それぞれのカテゴリのかわいさを区別して説明し共有するために，「かわいい」の複合語が生まれたというのがこれまでの経緯である。

2020 年代になると，「かわいい」の新しい複合語は新聞には登場してこない。複合語

が多様になりすぎたために，シンプルな「かわいい」に原点回帰した可能性がある。例えば，2023 年には Z 世代が選ぶ流行語として，「かわいい」の語尾を舌足らずに変化させた「かわちい」が選ばれた（株式会社 N.D.Promotion, 2023）。メンズファッションのコーディネートを紹介する男性クリエイターがファッションアイテムを肯定する表現として使いはじめたとされているが，その根底にはジェンダーやカテゴリを限定しないオールラウンドな肯定表現としての汎用的な「かわいい」がある。2021 年，雑誌 Numéro TOKYO は「Kawaiism ―みんなのカワイイ」という特集を行った (Numéro TOKYO, 2021)。記事では「私のカワイイが最強」「最近メンズの世界でも『かわいい』が飛び交っています。」「『KAWAII』はジェンダーレス」と語る言葉が並んでいる。2000 年代にファッション雑誌が「かわいい」の種類を指定した時代を経て，もはや特定の服装やメイクだけが「かわいい」という指南は行われなくなっている。2016 年以降 Instagram などの SNS が普及したことで価値観の多様化が進み，以前ほどずば抜けて支持されるトレンドはないという指摘もある（稲垣 , 2022）。SNS には他者のさまざまな「かわいい」が可視化されており，どんなにニッチな趣味趣向であっても仲間を見つけることができる。SNS や動画投稿サイトではプライベートを公開する機会も増え，モデルやアイドルなど見た目のかわいさが特徴的な職業であっても，人間性など内面的な部分も含めて評価されるようになった。こうした環境が，他者が感じる多様な「かわいい」を肯定する風潮や，内面的な部分も含めた総合評価としての「かわいい」という言葉の使用につながっているのだろう。

6．おわりに

本稿では，「かわいい」を含む複合語について，その誕生から発展の過程を調べた。1990 年代後半から「きもかわいい」「ださかわいい」という言葉が使われるようになり，2005 年ごろからは「エロかわいい」「大人かわいい」など外見の属性をカテゴライズする複合語が拡大したことがわかった。また，それぞれの複合語が表す概念を，「外面的な特徴がかわいいグループ」「不快な要素があっても人によってかわいいグループ」「内面的な特徴がかわいいグループ」の 3 つに分類した。

本研究の限界は，書き言葉としての初出を新聞記事から検索した点である。新聞記事は公的かつある程度網羅的に世論を反映する媒体である。公表された時点を特定できるというメリットがあるが，「かわいい」やその複合語は私的な口語であるため，新聞記事に掲載される前に若者が日常場面で使っていたことは間違いない。また，新聞のメディアとしての影響度は年々低下し，読者層が変化しているため，記事の内容もそれに応じて変わっていることも考慮する必要がある。本研究で示した「かわいい」複合語の誕生年代は，真に誕生した時点ではなく，少なくともその時点までにある程度認知されていたという上限として解釈するとよいだろう。

今後の課題は，それぞれの複合語で表現される「かわいい感情」の質的な違いを検証することである。これまでの研究から，かわいいと感じることは，やさしい気持ちを生み出し，コミュニケーションなどの社会的な行動にも影響を与えることがわかっている（入戸野 , 2019）。かわいいものをみると笑顔になり（Nittono & Ihara, 2017），癒やされる（Chou et al., 2022）だけでなく，相手の心を認め理解しようとする（Sherman & Haidt, 2011），寄付などの向社会的な行動を促す（Jang, 2022）といった効果も報告されている。こうした研究は，主にベビースキーマを特徴とする幼い子どもや動物のかわいい画像を用いて検証されてきた。

しかし，本稿の 4 節でかわいさを「快―不快」「外面―内面」の 2 軸で 3 グループに分類したように，かわいさにはいくつかの種類がある。「かわいい」をさらに深く研究するためには，ベビースキーマに基づかないかわいさについても検討するのが望ましい。ベビースキーマを持たないかわいさでも，幼い子どもや動物の写真を見るときと同等のポジティブな感情や接近動機づけをもたらすことが示されている（Nittono & Ihara, 2017）。また，コミカルでユニークな「whimsical（変な，気まぐれな）cuteness」というかわいさが，ベビースキーマによるかわいさとは違った心理効果をもたらすという研究もある（Nenkov & Scott, 2014; Zhang et al., 2022）。ソーシャルメディアにおけるかわいいコンテンツを分析した Golonka et al.（2022）は，かわいさの定義を幼さに限定せず，肯定的で向社会的な感情や接近動機づけをもたらすものと捉え，かわいい感情には社会的な繋がりを築く役割があると考えている。ブームとしての「かわいい」が終わり，社会のさまざまな場面に「かわいい」が浸透した現在では，かわいさの違いや，それらによってもたらされる「かわいい感情」の違いに着目することで，「かわいい」の多面的な理解を一層進めることができるだろう。

注

本研究は，科研費 JP17H02651，JP21H04897 の助成を得て実施された。本研究に関して開示すべき利益相反関連事項はない。研究の着想と立案は両著者が行った。第 1 著者はデータベース検索，統計解析，草稿作成を行い，第 2 著者は調査データ収集，推敲，研究全体の統括を行った。最終原稿は両著者が承認したものであり , 共に責任著者である。本稿は，プレプリント（https://doi.org/10.51094/jxiv.194）として公開した原稿に加筆したものである。

引用文献

青柳絵梨子 (2014),『〈ルポ〉かわいい！―竹久夢二からキティちゃんまで』, 寿郎社
朝日新聞 (1985),「乏しい表現力かわいい連発（声）」, 8 月 4 日東京朝刊，5 頁
朝日新聞 (1988),「年齢選ばぬハイテク生活，幼児用オーディオ商戦　経験度外視の“平等化”かわいさが価値基準」, 12 月 3 日東京夕刊 , 11 頁

Chou, H. Y., Chu, X. Y., & Chen, T. C. (2022), The healing effect of cute elements. Journal of Consumer Affairs, Vol.56-No.2, pp.565–596. https://doi.org/10.1111/joca.12414

Golonka, E. M., Jones, K. M., Sheehan, P., Pandža, N. B., Paletz, S. B., Rytting, C. A., & Johns, M. A. (2023), The construct of cuteness: A validity study for measuring content and evoked emotions on social media. Frontiers in Psychology, Vol14, 1068373. https://doi.org/10.3389/fpsyg.2023.1068373

井原なみは・入戸野宏 (2012),「対象の異なる”かわいい” 感情に共通する心理的要因」,『広島大学大学院総合科学研究科紀要 I 人間科学研究』, 7 巻 , 37–42 頁 https://doi.org/10.15027/33096

今吉賢一郎 (1990),「[この人と］南伸坊さん（イラストレーター）／ 2」,『毎日新聞』, 7 月 25 日東京夕刊 , 5 頁

稲垣涼子 (2022),『カワイイエコノミー』, 日経 BP

Jang, H. (2022), Cuteness mediates the effect of happy facial expressions on empathy and charitable donations. International Review on Public and Nonprofit Marketing, Vol.19-No.4, pp.675-689. https://doi.org/10.1007/s12208-021-00322-2

株式会社 N.D.Promotion. (2023, 6 月 5 日),『Z 世代が選ぶ 2023 年上半期トレンドランキング』を Z 総研が発表！ [Press release]. https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000081.000020799.html

清澤雄 (2014),「かわいい色の調査結果に基づく評価者のクラスター分類とその嗜好特性」,『日本感性工学会論文誌』, 第 13 巻 1 号 , 107–116 頁 https://doi.org/10.5057/jjske.13.107

古賀玲子 (2009),『「かわいい」の帝国　モードとメディアと女の子たち』, 青土社

Lieber-Milo, S. (2021), Cute at an older age: A case study of Otona-Kawaii. Mutual Images Journal, Vol10, pp.93–108. https://doi.org/10.32926/2021.10.lie.otona

Lorenz,K. (1965), Über tierisches und menschliches Verhalten II. München:Piper.（=1989, 日高敏隆・丘直通訳『動物行動学Ⅱ』思索社）

増淵宗一 (1987),『リカちゃんの少女フシギ学』, 新潮社

増淵宗一 (1994),『かわいい症候群』, 日本放送出版協会

May, S. (2019), The power of cute. Princeton University Press.（=2019, 吉嶺英美訳『「かわいい」の世界　ザ・パワー・オブ・キュート』青土社）

みうらじゅん (2004),『ゆるキャラ大図鑑』, 扶桑社

村岡清子 (1997),「 草履・下駄の人気定着　「和」の良さ新鮮にとらえ（流行ウォッチング）」,『日経産業新聞』8 月 7 日 , 21 頁

長友佐波子 (1997),「メイド・イン・ストリート　スタイルは街から生まれる」,『アエラ』, 6 月 9 日号 , 30 頁

中村桂子 (2012),『日本の「かわいい」図鑑』, 河出書房新社
中野香織 (2002),「重ね着は進化する（モードの方程式)」,『日本経済新聞』, 5 月 10 日東京夕刊
中野稔 (2006),「ファッション雑誌で一人勝ち―カリスマ性と実用性で圧倒」,『日本経済新聞』, 2 月 14 日東京夕刊 , 20 頁
Nenkov, G. Y., & Scott, M. L. (2014), “So cute I could eat it up”: Priming effects of cute products on indulgent consumption. Journal of Consumer Research, Vol.41-No.2, pp.326–341. https://doi.org/10.1086/676581
日経流通新聞 (2001),「とぼけた味「立体福笑い」」, 3 月 15 日 , 2 頁
入戸野宏 (2009),「“かわいい”に対する行動科学的アプローチ」,『広島大学大学院総合科学研究科紀要 I 人間科学研究』, 4 巻 , 19–35 頁 http://doi.org/10.15027/29016
Nittono, H. (2016), The two-layer model of ‘kawaii’: A behavioural science framework for understanding kawaii and cuteness. East Asian Journal of Popular Culture, Vol.2-No.1, pp.79–95. https://doi.org/10.1386/eapc.2.1.79_1
入戸野宏 (2019),『「かわいい」のちから　実験で探るその心理』, 化学同人
Nittono, H., & Ihara, N. (2017), Psychophysiological responses to kawaii pictures with or without baby schema. SAGE Open, Vol.7-No.2. https://doi.org/10.1177/2158244017709321
Nittono, H., Lieber-Milo, S., & Dale, J. P. (2021), Cross-cultural comparisons of the cute and related concepts in Japan, the United States, and Israel. SAGE Open, Vol.11-No. 1. https://doi.org/10.1177/2158244020988730
Numéro TOKYO (2021),『Kawaiism みんなのカワイイ』, 148 号 , 扶桑社
大倉典子 (2017),『「かわいい」工学』, 朝倉書店
奥喜正・髙橋裕 (2013),『データ解析の実際』, 丸善プラネット
大塚英志 (1989),『少女民俗学　世紀末の神話をつむぐ“巫女の末裔”』, 光文社
斎藤環 (2011),「“移行対象”の手触り」,『芸術新潮 特集ニッポンのかわいい』, 62 巻 9 号 , 89 頁
島村麻里 (1991),『ファンシーの研究 「かわいい」がヒト，モノ，カネを支配する』, ネスコ
Sherman, G. D., & Haidt, J. (2011), Cuteness and disgust: The humanizing and dehumanizing effects of emotion. Emotion Review, Vol.3-No. 3, pp.245–251. https://doi.org/10.1177/1754073911402396
高橋幸 (2018),「「モテたい」願望の表明による「女らしさ」の強化― 2000 年代『Can Cam』における「モテ」表象の分析―」,『女性学』, 25 巻 , 84–92 頁 https://doi.org/10.50962/wsj.25.0_84
玉崎英次 (2016),「「ぐうかわ」「ゆめかわ」…若者言葉に「かわいい」新語続々」,

『産経新聞オンライン』10 月 17 日 , https://www.sankei.com/article/20161017-ZSCQUPFJDJNORDCJJE3YQNLM7M/2/

宇治川正人 (2021), 「「かわいい」と思う感情を表現する語の変遷―古語辞典・国語辞典の記述の分析―」 ,『日本感性工学会論文誌』, 20 巻 3 号 , 249–256 頁 https://doi.org/10.5057/jjske.TJSKE-D-21-00008

読売新聞 (1992),「何にでも『これ, かわいい！』 語義が豊富？表現の貧困？」,『読売新聞』, 7 月 29 日東京夕刊, 7 頁

読売新聞 (2002),「[ニッポン流行記] ミャー人形「きもかわいい」お守り」 ,『読売新聞』, 6 月 22 日東京夕刊 , 7 頁

四方田犬彦 (2006),『「かわいい」論』, 筑摩書房

米川明彦 (2002),『明治・対象・昭和の新語・流行語辞典』, 三省堂

吉川学 (2000),「[人模様]「ださかわいさ」の研究＝共立女子大学 4 年・行徳玲子, 佐藤のぞみさん」 ,『毎日新聞』, 6 月 30 日東京夕刊 , 3 頁

吉光正絵 (2017),「〈カワイイ〉の銀河系」, 吉光正絵・池田太臣・西原麻里編『ポスト〈カワイイ〉の文化社会学　女子たちの「新たな楽しみ」を探る』, ミネルヴァ書房 , 1-49 頁

Zhang, T., Feng, C., Chen, H., & Xian, J. (2022), Calming the customers by AI: Investigating the role of chatbot acting-cute strategies in soothing negative customer emotions. Electronic Markets,Vol.32-No.4, pp.2277-2292. https://doi.org/10.1007/s12525-022-00596-2

表1. 新聞記事での「かわいい」複合語の初出

No.	年	複合語	掲載記事の詳細	出典
1	1986	**ぶすっかわいい**	「へたうま」と同じ種類の言葉としてブスとはいうもののかわいいという意味の「ぶすっかわいい」を紹介	川崎洋 (1986). 日曜くらぶ：流行語40年　毎日新聞　6月22日東京朝刊, 11
2	1997	**ダサかわいい**	やぼったい花柄やギンガムチェックが「ダサかわいい」と再び注目されているというファッション評論	日経流通新聞 (1997). キュートな魅力，水辺にも70年代。　4月17日, 11.
3		**グロかわいい**	未知への憧れや個性を表現したい若者が「グロかっこいい」「グロかわいい」という新たな価値観を見出しているという評論	日本経済新聞 (1997). グロテスクなグッズ人気――クールな魅力は「グロかわいい」，宇宙人や恐竜など。　5月10日東京朝刊, 35.
4		**きもかわいい**	女子高生が一風変わったキャラクターを「きもかわいい」と好んでいる流行について，これまで負の価値を担わされてきたものにも新しい価値を見出していると評論	毎日新聞 (1997). ［時流語辞典］きもかわいい　9月26日東京夕刊, 16.
5	1998	**おもしろかわいい・へんてこかわいい・不思議かわいい**	かわいいという言葉が氾濫し，言葉の意味が枝分かれしながら，表現する内容も複雑になっているという流行語評論	大原悦子 (1998). かわいい　無難で便利，でもご用心（探検キーワード）　朝日新聞　10月3日東京夕刊, 11.
6	2002	**ブスかわいい（キモかわいい）**	渋谷・原宿で流行している重ね着ファッションが，安易な「かわいさ」の判定を否定するいわゆる「キモかわいい」「ブスかわいい」スタイルであるという評論	中野香織 (2002. 重ね着は進化する（モードの方程式）　日本経済新聞　5月10日東京夕刊, 12.
7		**オジかわいい**	父親の服を組み合わせたファッションが「オジかわいい」と言う女子大学生の流行を紹介	小松亜子 (2002). オヤジのお下がり　ダボッとかわいく（ウチらのはやりモン）　朝日新聞　10月20日東京朝刊, 32.
8	2005	**カッコかわいい**	女子中高生が「等身大の自分から大人の女性へ」と願う気持ちを「カッコかわいい」というトレンドとして紹介	中村泰子 (2005). 資生堂のシャンプー「ティセラ・マジカルノート」（プロの目商品評価）　日経産業新聞　2月8日, 20.
9		**コワかわいい**	愛・地球博の警備ロボット「ムジローとリグリオ」が親しみやすさと不審者への威圧感を両立させたデザインで「こわカワイイ」と紹介	朝日新聞 (2005). 警備ロボ，こわカワイイ　ガイド役にも　愛・地球博　2月10日名古屋版夕刊, 10.
10		**エロかわいい**	歌手の倖田來未が媚びない自己表現としての新しいエロチックさを表現した「エロかわいい」として女性に支持されているという紹介	石井誠 (2005). 倖田來未の大阪コンサート――“エロかわいさ”に女性共感（タウン・ビート）　日本経済新聞　11月21日近畿特集.
11	2006	**ゆるかわいい**	「ゆるかわいい」と人気の彦根地方キャラクター，ひこにゃんの紹介	読売新聞 (2006). ひこにゃんに会いたい　彦根城４００年祭キャラクターが人気＝滋賀　読売新聞　9月30日大阪朝刊, 35.
12		**姫かわいい**	下着メーカーと10代女性向け雑誌が「姫かわいい」「エロかわいい」というテーマで共同開発した下着の紹介	日経MJ (2006). ワコール，10代向け下着，女性誌と開発。　12月20日, 6.

No.	年	複合語	掲載記事の詳細	出典
13	2007	**大人かわいい**	20代後半の女性が「大人かわいい」というファッショントレンドを好むというファッションの流行を紹介	日本経済新聞 (2007). 大人かわいい――Y世代，通勤着選びも奔放（さぶかるウォッチング） 3月17日東京夕刊, 3.
14		**エコかわいい**	舶来思想の「ロハス」と違って「エコかわ」は地に足がついた身の丈サイズの環境意識であるという評論	日本経済新聞 (2007). エコかわいい――長続きの秘訣は「日本的」（さぶかるウォッチング） 7月21日東京夕刊, 3.
15		**レトロかわいい**	女性から「レトロかわいい」と好評でブームになりつつあるチェコ文化の紹介	日経MJ (2007). チェコ，手作りの風，新世界より――カフェ，雑貨，アニメ（ブームの予感） 8月29日, 16.
16		**ぼちゃかわ**	お笑い芸人の柳原可奈子について，ぼっちゃりとした愛らしい“ぼちゃかわ”体型が人気と紹介	清川仁 (2007). ［ALL ABOUT］柳原可奈子 「ぼちゃかわ」娘は笑いの求道者 読売新聞 11月21日東京夕刊, 10.
17	2008	**ズレかわいい**	正統派なかわいいキャラクターではない「つっこみどころ」を残したものがヒットしているという評論	日本経済新聞 (2008). ズレかわいい――キャラクターに「つっこみ」（さぶかるウォッチング） 4月19日東京夕刊, 3.
18	2009	**ぶさかわいい**	ぶさいくだがかわいいところが「ぶさかわいい」と呼ばれて人気の秋田犬“わさお”がテーマの写真展告知	塚本弘毅 (2009). 写真展：ぶさかわいい「わさお」 鯵ヶ沢で始まる／青森 毎日新聞 2月19日地方版／青森, 23.
19		**おしゃれかわいい**	「おしゃれかわいい」をテーマに街おこしイベントを開催した商店街の取材記事	磯崎こず恵 (2009). 劇場のような街へ 柳ヶ瀬・日ノ出町商店街が「宣言」 23日まで，幻まつり／岐阜県 朝日新聞 12月19日地方版／岐阜, 35.
20	2011	**ドクカワ：毒があるけどかわいい**	「ドクカワ」は斜に構えたかわいさの象徴であり，「キモカワ」などと同様に「かわいい」のバリエーションを拡げているという評論	日経MJ (2011). 「ドクカワ」，女性ホネ抜き――ドクロ，毒気抜いてカワいく（ブームの裏側） 7月13日, 20.
21		**モテかわ・ナチュかわ**	駅ビルの２０代女性をターゲットにした新しいフロアのテーマを，「キャンパス向けのモテかわ系や自然派のナチュかわ系」と紹介	毎日新聞 (2011). つながる九州：新博多駅ビル内覧会（その２）オープンへ準備万端 3月１日西部朝刊, 27.
22	2013	**キレカワ：奇麗でかわいい（ブスかわ，カッコカワイイ）**	「かわいい」という言葉のバリエーション紹介と，福岡市のPR「カワイイ区」についての評論	鬼束信安 (2013). 「かわいい」が起こした騒動 読売新聞 2月22日東京朝刊, 13.
23	2014	**ヘンかわ：変だけどかわいい**	「変だけどかわいい」生き物を紹介するTV番組の紹介	小間井藍子 (2014). ［おやこ de TV］「ヘンないきもの2014」読売新聞 5月29日東京朝刊, 25.
24	2016	**あざとかわいい**	Jリーグチーム，V・ファーレン長崎のキャラクター，ヴィヴィくんの紹介	勝見壮史 (2016). （週刊Ｊリーグ）マスコットどれ推し？ 総選挙，投票きょう締め切り ２０日発表 サッカー 朝日新聞 2月12日東京夕刊, 10.
25	2017	**ゆめかわいい：夢みたいにかわいい**	あらいぐまのキャラクター「ラスカル」がゆめかわいいをテーマに期間限定ショップを出展する告知	読売新聞 (2017). ［POP友］ショップやベーカリーに出没中 パッケージに採用 読売新聞 9月13日東京朝刊, 8.

A Short History of Compound Words Derived From “Kawaii”

Namiha IHARA and Hiroshi NITTONO

The Japanese word “kawaii,” which roughly means *cute, lovely*, and adorable in English, is ubiquitous in Japan. It is used not only as a standalone adjective but also in compound adjectives, which often combine conflicting elements, such as “kimo-kawaii” (creepy-cute) and “dasa-kawaii” (uncool-cute). In this study, we explored newspaper article databases to investigate when “kawaii”-based compound words first appeared in the literature and how they have evolved. Until the late 1970s, “kawaii” was mainly used to describe vulnerable and innocent beings and things, such as children, animals, and fancy goods. However, in the 1980s, the concept rapidly expanded to encompass even the negative and undesirable aspects of human beings and things. In the late 1990s, compound words such as “kimo-kawaii” and “dasa-kawaii” appeared in newspapers. Since approximately 2005, the variety of compound words has widened to include descriptions of women’s fashion and appearance styles, such as “otona-kawaii” (adult-cute) and “ero-kawaii” (sexy-cute). A survey on the frequency of experiencing the feelings expressed by various types of “kawaii” compound words revealed that the compound words can be organized along two axes, pleasant–unpleasant and external–internal, and divided into three groups—external kawaii, internal kawaii, and kawaii with unpleasant elements.

Key words: cuteness, etymology, Japanese pop culture